



ガーンス記念ホールで行われる全校生徒による礼拝

E メモ 3



<主な行事や課外活動>礼拝（毎日、始業時に行なうほか、毎週1回ガーンス記念ホールで。入学、イースター、平和記念、クリスマス、創立記念、キリスト教強調週間などの日にも行う）▽沖縄修学旅行（高2で。有志が事前に現地で研修し六つの選択コースのリーダーとなる）▽英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト（高1、高2）▽碑めぐり案内（国内外から広島を訪れた生徒にボランティアで平和記念公園内の碑を案内）▽海外研修（韓国、オーストラリア、カンボジア、米国などで。授業参加やホームステイも）

たくましく 世界で輝く

高校人国記

広島女学院高校（広島市中区）⑤

高校時代、国際支援に関心を抱き2001（平成13）年WFPに西アフリカのシエラレオネなど6カ国に赴任。エボラ出血熱患者へ食糧を届け、貧困地帯で学校給食の仕組みを作った。「異なる文化を持つ人々、高い意識を持つ人と仕事をし、自分自身が成長できた」と言い、「仕事は自己実現の手段。小さな一歩でも大きな成果を生む」と若い世代に訴える。

創立時から外国人教師による英語教育を行い、昭和初期には海外留学生を受け入れた女学院。14（同26）年度には、文部科学省が国際的な人材育成のために設けた「スペーグローバルハイスクール」の指定校に。平和教育や英語教育の取り組みは全国で、他の3校と共に中間評価で最高評価を受けた。担当した教頭高見知伸（52）も卒業生だ。北岡美佐子（38）は、女学院中3年で校内の英語コンテストに優勝。その自信がきっかけとなり、高校1年では県のコンテストで県教育長杯を受賞。クラブ活動で英語に

国連大学本部。4階にある国連世界食糧計画（WFP）日本事務所で、代表の焼家直絵（45）は振り返る。世界で8億人以上といわれる飢餓に苦しむ人たちを支援し、飢餓をなくすため、資金集めや広報をするのが主な役目だ。

1（平成13）年WFPに西アフリカのシエラレオネなど6カ国に赴任。エボラ出血熱患者へ食糧を届け、貧困地帯で学校給食の仕組みを作った。「異なる文化を持つ人々、高い意識を持つ人と仕事をし、自分自身が成長できた」と言い、「仕事は自己実現の手段。小さな一歩でも大きな成果を生む」と若い世代に訴える。

創立時から外国人教師による英語教育を行い、昭和初期には海外留学生を受け入れた女学院。14（同26）年度には、文部科学省が国際的な人材育成のために設けた「スペーグローバルハイスクール」の指定校に。平和教育や英語教育の取り組みは全国で、他の3校と共に中間評価で最高評価を受けた。担当した教頭高見知伸（52）も卒業生だ。北岡美佐子（38）は、女学院中3年で校内の英語コンテストに優勝。その自信がきっかけとなり、高校1年では県のコンテストで県教育長杯を受賞。クラブ活動で英語に

国連世界食糧計画日本事務所
代表 焼家直絵

「女性でも活躍できる。そんな精神学んだ」



荊尾遙



北岡美佐子



藤森晶子

より演劇を上演し、頻繁に洋画を見たこと
もEQ（心の知能指数）を伸ばしてくれた
という。

米国の大学へ進学。公認会計士の資格を
取得したが「自分らしく生きたい」と帰国。
15（同27）年から、ニュージーランドの政
府機関「エデュケーション・ニュージーラ
ンド」の駐日代表に就任した。先住民との
共生社会を実現した同国への留学を促進
し、日本の若者に異文化体験をしてもらう
ことを目標す。

国家公務員の道を歩む五百旗頭千奈美（46）は昨年まで2年間、内閣官房の企画官として東京オリンピック・パラリンピックに向けたバリアフリー対策を担当。文部科学省の斎藤更紗（41）は独立行政法人日本学生支援機構の課長として海外留学をサポートする。

卒業後、絆が強いのも女学院の特徴だろ
う。たくましく生きる人が多いのも。卒業
生の要、同窓会は会長の大矢みどり（66）や
会報編集委員長鶴弓子（60）、事務局長與儀
泉（61）らが仕切る。大矢は卒業生の支えとな
っている聖書の一節を挙げる。「わたした
ちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍
耐は練達を、練達は希望を生む」といふこと
を「=敬称略（委員編集委員・富沢佐一）」
に参加したのがきっかけで、重複問題に興
味を抱き、在オランダ日本大使館や国連に
勤務した。「実体験を通して自分の考えを
持つ人になってほしい。同時にさまざまな
意見を聞いて柔軟な発想も」とは後輩への
メッセージだ。

「原点となつたのは女学院で受けた高い
水準の英語教育です」。藤森晶子（40）の
回想だ。東京大大学院時代、第2次世界大
戦中にドイツ兵と交際していたため、解放
後に「対ドイツ協力者」として丸刈りにさ
れた女性たちを研究。岩波現代全書として
出版した。外国大使の秘書などを経て現在

「実体験を通して自分の考え方を持つ人になって」

「高校人国記」は広島、山口両県を中心回つて、高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp

「高校人国記」は広島、山口両県を中心回つて、高校ごとに話題の卒業生を紹介しています。各校の情報をメールなどでお寄せください。宛先は〒730-8677広島市中区土橋町7の1、中国新聞編集局「高校人国記」係。メールは、bokou@chugoku-np.co.jp